

海運会社等

ブラジル・ペトロbras向けドリルシップ傭船事業

プロジェクトパートナー
川崎汽船、日本郵船
三井物産、日本海洋掘削



- ✓ 本邦企業4社が85%強出資して設立されたエテスコ・ドリリング・サービス・エル・エル・シー社がドリルシップを保有。
- ✓ ペトロbrasに対し最長20年間にわたり傭船サービスを提供。2012年4月25日より傭船開始。

ブラジル・ペトロbras向けFPSO傭船事業

プロジェクトパートナー
商船三井、三井物産、丸紅、三井海洋開発

- ✓ 2014年第3四半期よりブラジル沖合のCernambi Sul鉱区の開発に投入される予定(傭船事業)。

造船会社、機器メーカー等

最新鋭のセミサブ型リグの共同設計

プロジェクトパートナー
日本海洋掘削、JMU、IHI



セミサブ型リグ

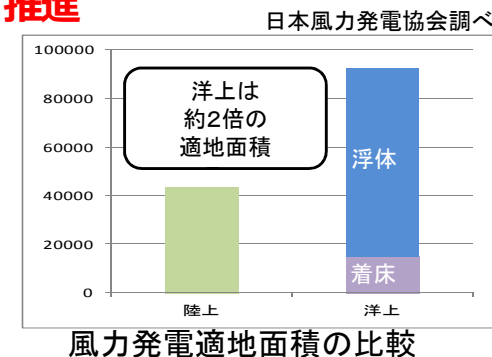
マレーシア・ペトロナス向けFLNGの基本設計

プロジェクトパートナー(コンソーシアム)
三井海洋開発、IHI、東洋エンジニアリング
CB&I(オランダ企業)

- ✓ ペトロナスが、マレーシア・サバ州沖合のガス田向けに新設するFLNGの基本設計(FEED)を2つのコンソーシアムに発注。
- ✓ 2つ目のコンソーシアムは、日揮・サムスン重工。
- ✓ LNG年間生産量は150万トン、納期は2013年半ばを予定。

背景

- 風力発電は、新成長戦略、エネルギー基本計画等に位置付けられており、**日本政府全体として推進**
- 狭隘な国土、浅海域の少ない我が国では、
➡ **風力発電は、広大な空間と安定した風環境を有する洋上沖合への展開が必然**
 (風車は、陸上 ⇒ 洋上(着床式) ⇒ 洋上(浮体式)へ)
- 東日本大震災からの復興の基本方針でも、太陽光発電、**風力発電等再生可能エネルギーの導入を促進**



浮体式洋上風車の例



■浮体・係留設備の安全性に係る技術的検討

台風、地震等我が国固有の状況を踏まえて浮体式風車特有の技術的課題について検討

- ① 単体での安全確保
(転覆、沈没しない構造等)
- ② 大規模展開時の安全確保
(係留ラインの交錯防止等)
- ③ 非常時の安全確保
(船舶の衝突、係留索の破断、漂流等)



浮体式洋上風力発電施設技術基準を制定 (平成24年4月23日)

「安全ガイドライン」を策定

我が国主導の国際標準化※

※2011年9月よりIEC(国際電気標準会議)における国際標準化が開始。

関係省庁 (工ネ庁、環境省) と共に実用化を支援

浮体式洋上風力発電**普及拡大** + 関連産業の**国際競争力強化**

競争力のある海洋産業の育成に向けて

海洋資源開発の我が国技術の活用機会確保

- ✓ 競争力のある産業を創出するには、技術の高度化とともに、その実証が不可欠
- ✓ 我が国周辺海域での海洋資源の試掘等の我が国関連のプロジェクトにおいても、我が国の技術を活用すべき

海外では海洋資源開発プロジェクトが盛んであり、海外進出の好機

- ✓ 積極的な海外進出を通じて、技術の信頼性を積み上げるべき
- ✓ 海外プロジェクトを受注するには、企業連携による競争力強化も重要

国際競争力を有する海洋産業の育成を経て

世界的に拡大する海洋開発への
我が国海洋産業の進出

我が国EEZの
我が国海洋産業による開発

ご清聴ありがとうございました



MB

Maritime **B**ureau